

やまぎん

アジアニュース

2019年5月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



【大連支店】

中国の環境事情について

1. はじめに

日本の5月は新緑の季節ですが、ここ大連では5月中旬頃まで桜を楽しむことができます。日本の「お花見」とまではいきませんが、先日も若いカップルが桜の木を背景に写真撮影をしており、中国の方々にとっても桜には特別な魅力があるようです。中国では一般的に「桜」のことを「日本櫻花」と表記します。最近はこの「日本櫻花」を見るために日本へ旅行する観光客も増えているようです。また、大連市には司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」の舞台でもある旅順口区があり、その旅順にある日露戦争の激戦の舞台となった二百三高地は、今では桜の名所として、毎年多くの人々が訪れています。

これらの豊かな自然は、クリーンな環境があつてこそ成り立ちますが、今や世界第2位の経済大国となった中国においては経済発展と環境問題は切っても切り離せない問題となっています。中国政府は2006年からの「第11次5ヵ年計画」により環境汚染物質の排出総量規制を設け、二酸化炭素排出量の減少（第12次5ヵ年計画から設定）等の環境目標を導入してきました。2019年は「第13次5ヵ年計画」が進められています。

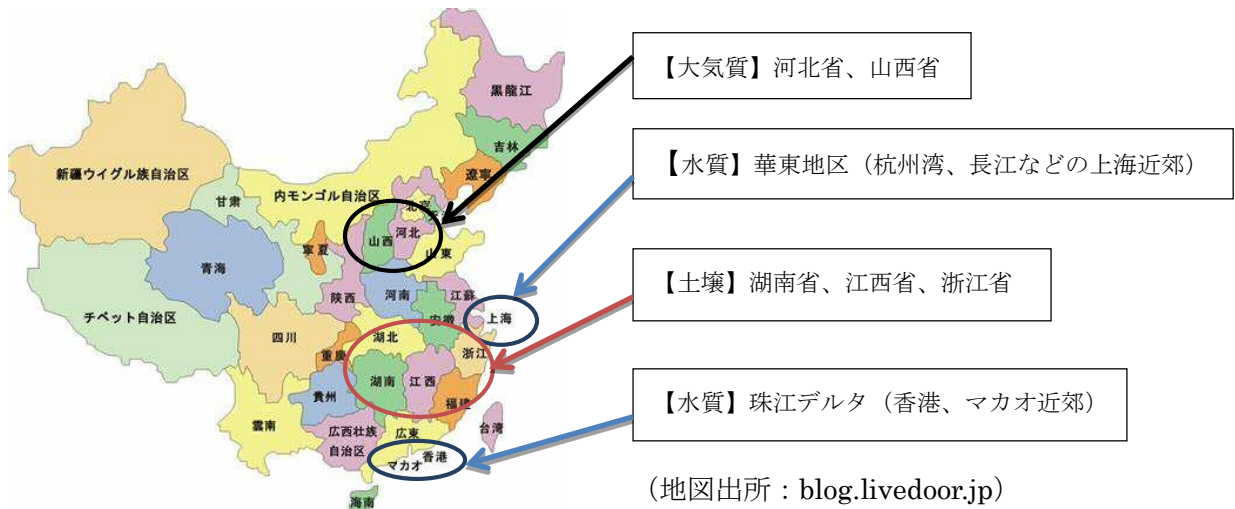
2. 環境汚染の現状

中華人民共和国生態環境部が作成した中国環境状況公報（2018年）によりますと、大気汚染が進んでいる都市は河北省、山西省など内陸の都市が多くなっています。

また、水質では中国環境状況公報（2017年）によりますと、汚染された海水レベルを示す分類（1類：良質～4類：不良）のうち、最も悪いレベル（4類）は華東地区（杭州湾、長江などの上海近郊）と珠江デルタ（香港、マカオ近郊）に集中しています。

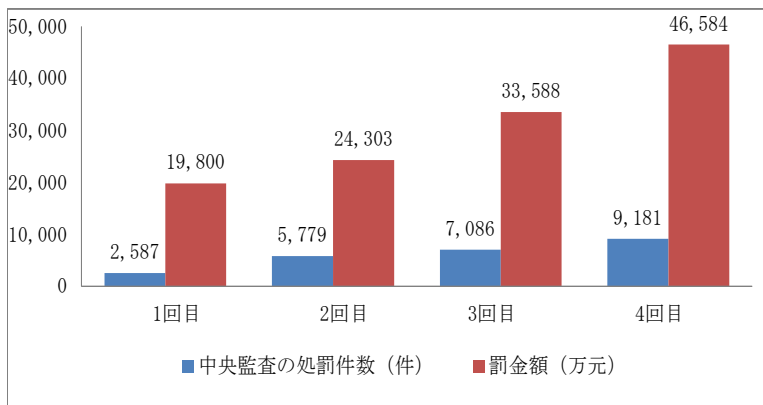
中国環境保護部等が中国国土の約66%をカバーした全国土壌汚染状況調査によりますと、土壌汚染は、珠江、長江、湖南省東部、浙江省南部・沿岸部、江西省南部が多いようです。

このような状況下、法令規制の整備による環境汚染改善も図られており、主な特徴としては、①事後管理を厳格化、②罰則の強化、③汚染排出許可制度の新設、④インターネットによる情報公開等が挙げられます。

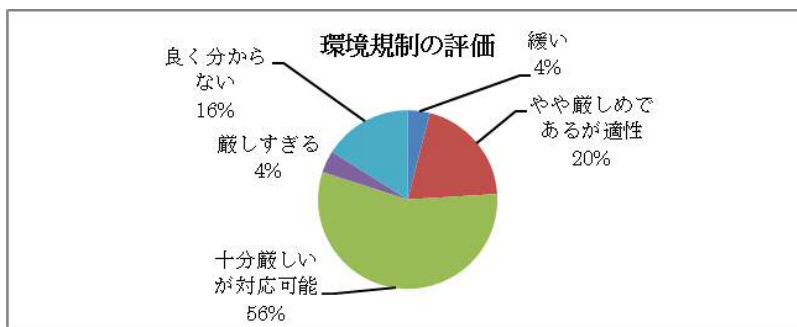


【中国の環境汚染状況】

また、法令が整備されると同時に、2016年より環境保護部による全省を対象とした中央監査が行われるようになり、回数を重ねるごとに、処罰件数、罰金額が増加しています。一方でJETRO 上海が2017年に行った進出日系企業（約190社）を対象とした環境規制アンケートによりますと、2割の企業は「やや厳しめであるが適性」、約6割の企業は「十分厳しいが対応可能」と回答しており、環境対策は現代社会においては自然な流れになっているとも言えます。



【環境保護部中央監査の結果】



【環境規制アンケートの結果】

3. 山口銀行大連支店と中国銀行（Bank of China）との合同環境商談会について

山口銀行大連支店は、2019年3月5日に中国銀行大連市分行、中国銀行大連西岡支行と合同で中国大連市にて環境分野にテーマを絞った環境商談会を開催し、日本側3社、中国側22社が参加しました。今回参加した日本企業は、それぞれ、環境分析機器、工場設備用の脱臭装置、排水処理設備を取り扱う企業で、各社がプレゼンテーションにて自社製品を中国企業にPRしました。

各社プレゼンテーションの際には中国の一般参加者に加え、大連市環境保護産業協会や中国国際貿易促進委員会、ジェトロ大連事務所からも参加があり、熱心に耳を傾けていました。また、日本企業に対し中国企業から多数の質問があったほか、予定時間を越える熱心な商談



【合同環境商談会の様子①】

が行われるなど、環境規制強化に対し悩みを抱え、日本の環境技術を活用して状況を打開したいという中国企業のニーズが強く感じ取れる商談会でした。



【合同環境商談会の様子②】

参加した日本企業からも、「中国企業の環境対策ニーズが明確であり、全ての商談が取引につながる確度の高い商談となった」「商談のなかで、中国大連市における環境対応の実情を肌で感じ取れた」「他の商談会と違い、お互いのニーズ合致が前提で商談でき、中国側の環境対策ニーズも明確で有意義な商談だった」といった意見があり、各社とも収穫は大きかったようです。

今後も山口銀行大連支店と中国銀行とで取引先企業支援に繋がる連携・活動を継続していく予定です。

4. 第20回中国環境博覧会レポート（2019年4月15日~17日）

上海新国際博覧センターにてアジア最大級、世界2位の規模の「第20回中国環境博覧会」が開催されました。大気汚染や排水処理、廃棄物処理、リサイクル等の環境分野から約2,000社が出展し、約7万3,000人の来場者がありました。東京ドームの約1.2倍もある会場には14棟の会場ホールがあり、各ホールには100社以上の受付ブースと、会場の外には別に大型装置も複数展示されていました。また、本年は欧米系の企業が複数・大規模に出展しており、今後の中国環境ニーズの拡大をにらみ、各社とも攻勢をかけている印象でした。

一方で、日系企業は約45社（現地法人、現地代理店出展含む）が出展しており（YMFGグループ取引先からも出展）、価格面では中資企業との競合で厳しいものの、単なる売り込みではなく、「環境対策に苦勞している現地企業の現状や問題点をヒアリングし、自社の実

績を交えて付加価値のある新しい提案を行う」といった日本ならではのスタイルで市場を開拓しようとする姿勢がみられました。YMFG グループ取引先の期間中の有効面談は約300件と、非常に活気・熱気のある博覧会となったようです。本博覧会も2019年からは新たに成都でも開催予定とのことで、環境対策への意識の高まりは今後も続いていくと思われます。



【中国環境博覧会の様子①】



【中国環境博覧会の様子②】

5. 終わりに

ニュース等では中国経済の減速について連日報道がなされていますが、環境分野の市場は年々拡大しています。環境に対する問題意識が年々高まる中、日系企業のみならず、中国国内の企業もさまざまな対応を実施しています。当店取引先においても、例えば市街地に近い製造工場の移転要請や生産規制、また規模の大小もありますが排水対策、排煙対策、騒音対策等々の対策要請を受けたとの声が聞こえてきます。私共山口銀行大連支店は、先の環境商談会のようなマッチング活動のほか、個別の相談や関連する資金ニーズ対応など、様々な面から中国国内サポートを行っておりますので、ぜひお気軽にご相談ください。

(山口銀行大連支店 池岡 慶了)

【参考文献】

- ・JETRO 中国環境規制の現状 (2018年10月19日付)
- ・JETRO ビジネス短信 (2019年4月24日付)
- ・中華人民共和国生態環境部 中国環境状況公報 (2017年、2018年)
- ・中国環境博覧会ホームページ

<http://www.jcesc.com/ieexpo2019/>